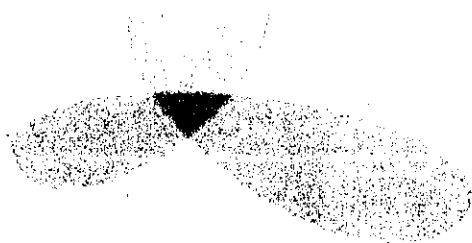


令和3年度

在宅障害者多機能支援施設 ラボラーレ

事業報告書（案）



みんなの「生きる」を
社会福祉法人

社会福祉法人ふれあいの里

令和3年度ラボラーレ事業報告書（案）

関係法令を遵守するとともに『法人の理念』に基づき、利用者の意思及び人格を尊重し常に利用者の立場に立った個別支援計画を作成し、適切且つ良質なサービスの提供を行うことをあたりまえに、一人ひとりとの関わりを大切に過ごして参りました。また職員間でのテーマを『挑戦』と掲げ、目標を達成するためにはどう考え、どう行動するかを意識しながらサービス提供に努めて参りました。

その中で8月にコロナ感染発生により、結果として2週間の施設休止となり、ご利用者様、ご家族、関係者の皆様に多大なる不安とご心配、ご迷惑をお掛けしました。しかし、そのような中でも、ラボラーレに対する心温まるお言葉やたくさんの協力を頂きました。とても有り難く、再開に向け、現状を見直しながら、職員一丸となり準備する中で、ラボラーレの強みである『チームワーク』をより強固なものにする機会になったとも感じています。

また、コロナ禍で行動の制限などがある中でも、日々のやり取りの中でご利用者様が喜びや楽しみを感じながら生活できるサービスを提供する中で、職員一人ひとりの役割、スキルが問われる毎日でもありました。

課題である就労支援事業収入増は平均工賃額1万5千円の目標達成には至らずの結果ではありましたが、令和3年度も大切にしてきた人と人のつながりや多くの方から頂いた心温まる言葉、そこから感じた感謝の気持ちは、ご利用者様、職員共に一人ひとりの成長と大きな喜びとして感じる事ができ、働く意欲に繋がったと感じています。

1. 職員の配置状況

職名	施設長	サービス 管理責任者	看護師	生活支 援員	職業 指導員	目標工 賃達成 指導員	機能訓練 指導員 (嘱託)	医師 (嘱託)
定数	1	1	1	16	1	1	1	1

2. 登録利用者の状況（令和3年3月31日現在）

(1) サービス区分毎 男女別登録利用者の状況

サービス区分	定員	登録現員		計
		男	女	
就労継続支援B型	20名	11名	7名	18名
就労移行支援（休止中）	0名	0名	0名	0名
自立訓練（生活訓練）	6名	2名	1名	3名
生活介護	14名	7名	12名	19名
日中一時支援	5名	6名	5名	11名
合計	45名	26名	25名	51名

(2) サービス区分毎 地区別登録利用者状況

サービス区分	定員	市町村	計	合計
就労継続支援B型	20名	石巻市	16名	18名
		東松島市	1名	
		登米市	1名	
就労移行支援	0名			0名
自立訓練（生活訓練）	6名	石巻市	3名	3名
生活介護	14名	石巻市	15名	19名
		東松島市	1名	
		登米市	2名	
		南三陸町	1名	
日中一時支援	5名	石巻市	6名	11名
		東松島市	2名	
		登米市	3名	

就労移行支援：休止中

(3) 性別・年齢別の登録利用者状況

年齢区分	男	女	計
～14歳	0名	0名	0名
15歳～19歳	1名	1名	2名
20歳～29歳	14名	10名	24名
30歳～39歳	6名	7名	13名
40歳～49歳	0名	4名	4名
50歳～59歳	1名	2名	3名
60歳～69歳	3名	1名	4名
70歳～	1名	0名	1名
計	26名	25名	51名

(4) 障害の状況

障害の状況	男	女	計
身体障害	8名	12名	20名
知的障害	20名	21名	41名
精神障害	2名	2名	4名
手帳なし	0名	0名	0名
(内) 重複障害	5名	9名	14名
合計(重複含めず)	25名	26名	51名

3. 事業毎の稼働率状況(単位%)

	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月
就労継続支援B型	20名	85	79	88	76	36	79
自立訓練(生活訓練)	6名	54	44	42	41	17	31
生活介護	14名	118	117	118	108	50	100
日中一時支援	5名	82	82	89	76	34	51

	定員	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
就労継続支援B型	20	82	83	83	80	77	72	76
自立訓練(生活訓練)	6	40	31	46	47	46	44	40
生活介護	14	99	105	103	101	98	102	102
日中一時支援	5	51	59	61	56	49	57	62

※就労移行支援は休止中

4. 作業種別及び部門毎の活動状況

令和3年度は目標にしていた工賃1万5千円以上を達成は未達成の結果となっている。

(令和3年度 ¥10,167 円)

(1) パン事業

【現状】

個別支援計画に基づきながら、一人一人の障害特性に合わせ支援にあたった。

内容としては、生地分割・計量、パイやブレッドの成形、袋入れ、洗い物、拭き方、ラベル貼り、接客の挨拶等の発声練習、販売活動など多岐に渡り、一緒にステップアップできるように支援している。

他者と関われる作業、意思表示の機会提供、場に適した言葉使いの訓練等を提供している。個々の能力に応じた作業提供を心がけ、自信に繋がるよう支援している。個々の得意を活かし、能力を伸ばす事で生産性向上を図っている現状である。

安全に作業を行い、購入したお客様にも安心して美味しく食べて頂くために、作業前の体調チェック・衛生チェックを利用者様、職員ともに行っている。異物混入には十分に気を付けており、製品に髪の毛や袋の破片が混入しないように皆で声を掛け合いながら作業に取り組んでいる。

HACCPの衛生管理に基づきながら、水はね防止のためパーテーションを設置し、布巾や器具の消毒を行い、日々の作業では、ご利用者様にも衛生面の意識を高めていただけるように声掛けを行うと共に、調理器具や冷蔵庫の取手等の手が触れる箇所の除菌作業にも取り組んでいただいている。

今年度の目標額 3,750,000 円に対して、2,337,002 円の売上になっている。コロナ禍の影響は大きく販売活動を自粛する期間もあった。年度末には次年度に向けて販路を拡大し、販売する機会を確保している。(桃生支所・河南支所・河北支所・石巻駅前イオン店・RG連合・東北電子の6ヶ所) また、今後、販売活動が活発に行われるようになるまで、ご利用者様のモチベーションを維持し、意欲的に取り組めるように接客訓練も作業時間に取り入れている。発話の機会も増え、ご利用者様のニーズにも応じた訓練を提供している。

販売活動を通じて、楽しみややりがいを感じられるよう、また、お客様とのやり取りに自信をもってできるよう、職員自身が見本となり、笑顔で丁寧な接客を心がけている。コロナの感染状況を確認しながら販売に参加しており、販売の際には、手指消毒をしっかりと行ったうえで、手袋・マスク・フェイスシールドを着用し、お客様にはトングを使用して頂き、感染防止対策をしっかりと取りながら販売活動をしている。

商品開発としては、季節毎の期間限定商品にも力を入れ、試行錯誤しながら挑戦し続けている。施設内ではパン給食の提供にあわせて、デザートも製造している。デザート作りの工程では、盛り付けや計量など取り入れ、家庭でも役割やつながりが持てるような支援

を行っている。ご家族からは、料理に対する興味が増し、混ぜる行為など施設での作業が活かされていると感じる場面もあるとの話を頂いている。

(2) 厨房作業

【現状】

個別支援計画に基づき、個々の課題、支援目標を念頭に支援を行なっている状況です。利用者様の特性を把握し、個々の能力を最大限に生かせるよう、日々作業に取り組んでいます。その中で得意、不得意とする作業も多々ありますが、どの作業も意欲的にチャレンジをして下さる利用者様がたくさんおられます。特に苦手な作業時は取り組みや声かけの工夫をしながら、段階的に進めております。出来ない事はあきらめるのではなく、どうしたら出来るのかを一緒に考え、確認しながら作業を進めています。

現在の主な作業内容としては、昼食づくり、食器の準備、配膳、外部からの注文や店頭販売の弁当作り、食器の洗浄、拭き方、片付け、厨房内の清掃を行なっています。外部の弁当作りには特に力を入れる予定でしたが、コロナの影響でなかなか販売へ行く事が出来ない現状でした。片付けは気持ちよく食器を使って頂くために必要である事を伝えながら、丁寧に洗浄、拭き方を行なえるように支援してきました。厨房内もきれいに保つために日々、清掃にも取り組んでいます。衛生面の強化も求められる中で、手袋やマスクの消耗品の値上げもあり、消耗品を大切に使いながら作業にあたることも必要とされました。できることとして、手袋の使い方では作業手順を考えながら取り組むことで使用量を減らす事に挑戦し取り組みました。また、HACCPによる衛生管理も義務化され、マニュアルの見直しを行ない、厨房内の衛生管理をより強化し業務に努めました。日々の取り組みの記録も徹底して行っています。

その中で、挨拶についても、気持ちの良い挨拶が出来るように支援を行い、利用者様同士の関り、やり取りの幅も増えてきています。

ラポラーレの昼食もありがたいことに、利用者様、職員の楽しみの一つになっているとの声が聞かれ、近隣のデリバリーランチも継続して注文を頂きました。普通食、ミキサー食、刻み食、食器の個別対応、麺が苦手な方へのご飯提供など、利用者様のニーズに合わせた提供を行ない、目で楽しむことにも力を入れてきました。

厨房部署も2名と層を厚くし、サービスに支障がないよう体制を強化したぶん、支援方法が異なるように情報共有しながら進めてきました。

(3) F&C (ファームクリーン) 作業

常に職員間で利用者様の日々の体調、表情、状況などの情報を積極的に共有し、個別支援計画の確認や振り返り、今はどういった支援が必要かを話し合い、作業提供の内容を決定し、今の本人との関わりなどを考えながら日々の支援に取り組んできた。利用者様の作業の中での「気づき」を大切にし、達成感や充実感が得られるような働きかけを持ちなが

ら、自信に結び付くようその時、その場で評価し伝えてきた。その結果、昨年よりも精神面で落ち着かれた方や作業面で成長される方の姿も見られている。なかでも利用者様同士の交流支援については、利用者様の作業に対する不足部分を職員が補うのではなく利用者様同士で協力、助け合うという方向で進めてきた結果、これまで以上に作業以外の点についても利用者様同士でコミュニケーションを図る機会が増えたように思われる。また作業以外での昼休み時間を職員、利用者様でスポーツやゲームに有効に活用した結果、ここで生まれたコミュニケーションが作業にも反映される結果となり、昨年と比べ、交流に基づいた作業への良い影響が生まれたと感じている。

■公園管理（登米市受託・登米市内公園3か所）

令和3年は、請負金額は登米市との交渉を続けた結果、入札額上限まで引き上げて請け負うことが出来た。〈410,268円⇒430,000円 19,732円up〉

一方、施設外就労の利用者様支援においては、施設外へ出て外部の方との接触の機会を得る事で、挨拶、身だしなみという部分を意識して頂ける様支援しながら関わりを続けてきた。現在、施設外就労に携わる利用者様は経験年数が長い方ばかりで、作業の内容に関する部分は把握されており、慣れた作業の中で、落ち着いて作業に取り組むことが出来ている。作業の中では、利用者様個々の理解度も異なるため、個別に説明をしっかりと行い、作業内容を理解して頂いた上で作業を開始できるよう働きかけをしている。作業後も作業を終えた公園を振り返り、始まる前と終わった後の違いを目で見えて感じて頂きながら、ひとりひとりの達成感に結び付けられる様に努めてきた。

【取り組み】

- ① 作業に使用する道具については、使い方を間違えれば事故やケガにつながる可能性が高い為、正しい使い方をゆっくりと相手の理解度を確かめながら、安全に作業が行える様取り組んでいる。
- ② 作業を開始するにあたり、一人一人の利用者様に作業の内容を説明し、理解を得た上で開始し、作業終了の報告までを一連の流れとして、取り組んで頂いてきた。作業に参加された利用者様全員とはいかないが、経験の積み重ねで報告・相談が出来るようになってきた利用者様もいる。
- ③ 施設外就労における作業は天候や気温に左右されることが多いため、季節に応じた衣類の調整、夏場の熱中症予防対策など水分補給などはこまめに取り入れ、利用者様の体調管理に気を配りながら作業を続けてきた。
- ④ 今後、より自立に向け地域社会との関わりや繋がりを持つ機会を考慮し、コミュニケーションの重要性、他者との交流が図れるよう利用者様同士で2人1組のペアとなり、会話の機会を設定や利用者様同士で協力し合う機会を意図的に設ける取り組みを重ねている。

■イチゴ生産

令和3年度は、前年の2400株から1600株に削減し、職員の管理可能な作付数に変更して栽培を行った。令和2年度は、菌による病気の拡大により圃場の半分以上が栽培途中で枯れてしまうという事態が発生したが、薬剤メーカーに相談し、メーカーの技術担当者立ち合いの元、土壌の殺菌対策を万全に講じ、その結果、圃場のほんの一部に同一の症状は見られたが、大きな被害にはつながらずに済んでいる。一株あたりからの収益量も増加傾向にあったが、8月のコロナ感染による施設の閉鎖に伴い、取引先からの納入停止が発生し、8月1ヶ月間の販売がストップしてしまったことが悔やまれる。売上目標は140万円を見込んでいたが、1,352,440円と結果未達ではあったが、目標金額に近づくことは出来た。その背景には、1株あたりからの収益量が、約50グラム増加した事と、一部納入先から8月収穫分の行先の無い在庫の大量引き取りの承諾を頂き、こちらの事情も踏まえ売値を引き下げ販売に結び付いたことが大きかった。

【取り組み】

- ① イチゴ栽培に対する利用者様の主な関りは、定期的な手入れのみに特化し、日常的に必要な収穫作業は、高温のハウス内での長時間作業となる為、専属の職員を確保し対応してきた。利用者様に関わって頂く部分は、複数の利用者様に挑戦して頂けるよう何かしら関わられる作業を職員で話し合い、イチゴ栽培に関わる機会を設けてきた。その経験を積む中で、上達される方や二人一組の作業に見直す事で出来なかった事が出来るようになった状況も発生している。
- ② 毎年、いちごの収穫作業における工数不足が懸念されていたが、令和3年度については収穫・選果・納品までの一連の作業を専属で行える職員が確保できたことにより、他の職員の工数で手入れを行う事も出来、管理の行き届いた栽培が可能であった。この結果、一株あたりからの収穫量は増加したが、コロナの影響で売上上昇には至らなかった。
- ③ いちご圃場における病害虫管理は病気が発生してからではなく、予防対策のための薬剤防除を前年度データに基づいて、発生が予想される前に定期的実施した事で、大きな被害を受けずに済んでいる。また生育状況に異常が見られた場合は、その都度、関係機関（石巻農業改良普及センター・ホクサン）に連絡し、早急な原因の解明に取り組み、被害の拡大を防ぐことが出来、その結果、収量の増加に繋げることが出来た。
- ④ 経費を見たときに細菌殺虫における薬剤の購入については、前年度に購入した薬剤の在庫を活用しつつ、必要最低限の購入に努め経費削減に寄与している。その他の消耗品についても売上目標額や収量見込み数量から予想し、出来る限り実態に即した購入

数になるよう計算し無駄な経費を抑えている。しかし令和4年度は、あらたに薬剤を購入しなくてはならない状況にある。

■野菜生産

令和3年度は、新型コロナウイルスの影響により、イトーヨーカドー、イオン等の野菜の対面販売の機会が減少した。しかし、新たな野菜販売先として（有）ファーストギルドと契約し県内ウジエスーパーの不揃いコーナーでネギを販売する事で¥277,771の収入を得ており、販売先の確保のみならず、受注が減少した給食センターの売り上げも補う形となっている。また、近隣のアッシュ園芸からの花の栽培に関する作業や、伊藤木材からの薪の箱詰め作業といった受託作業も継続して行っており、特に花の栽培に関する作業においては目標の¥30,000を大きく上回る¥210,260を売り上げている。全体の売り上げとしては¥1,198,684となっており、目標の¥2,000,000には到達は出来ていない。

【取り組み】

- ① 野菜の生産では利用者様の能力に合わせ得手不得手を見極め得意な部分を活かしつつ作業分担を行う事で、強みと可能性を引き出せるよう支援を行い、利用者様個々の達成感や自信に結び付けてきた。
- ② 利用者様みなでこまめな栽培管理を実施したことで、職員の手掛ける部分の作業範囲を分散することができ、良品質の野菜栽培が出来ている。
- ③ 花の栽培に関する請負作業では、アッシュ園芸様の作業場をお借りして作業を行う機会もあり、より責任感や緊張感をもって働く事を意識した作業提供が出来ている。また、薪詰め作業では個々に行う事が困難であり、利用者同士が互いに相談し協力し合い自発的にコミュニケーションが取れるよう支援を行った。
- ④ 施設外に出たの対面販売においては、新型コロナウイルス感染予防に努めながら今年度も市内スーパーで活動を行った。自分達で育てた野菜を生産者として直接お客様へ販売する事で、地域社会との交流や、社会生活において必要なコミュニケーションスキルの向上など実践的な訓練に繋げる事が出来たと思われる。

(4) 生活介護部門

コロナ禍のなかで、感染の心配による利用自粛や施設内での感染者の発生によるサービスの休止等で、稼働率の維持が難しくなった状況があった。同時に、感染症対策を念頭におきつつも、利用者様の楽しみや満足感につながるサービス提供ができるよう、活動の内容や日中の過ごし方を見直した一年でもあった。支援側も衛生面の意識を高く持つことで、

衛生面の観点からも、安心・安全な施設利用をしていただけるよう努めた。

日中活動としては、利用者様とのやりとりを通して、心身状況・特性・嗜好を把握しながらの運動や創作活動、レクリエーションの機会を提供している。その根底には個別支援計画があり、フロア職員各々が計画内容を確認しながら支援につなげられるよう努め、支援方法や体制の検討を重ねた。さらに、支援者個々が利用者様個人の状況と活動全体の状況を把握しながらも、統括ができるスキルを獲得するべく、支援体制の調整や活動内容の組み立てを行う機会も設けた。個々のスキルアップを図りながらも、密な情報共有と連携を意識し、つながりのあるサービス提供ができるよう心掛けた。

職員内での部署変更や入れ替わりがあったなかで、情報共有や伝達方法の面での課題は継続的に存在した。また、職員によって利用者様とのかかわりや関係性に差異があることで、サービス内容や支援者に偏りが生じ、利用者様の不安や困惑を招いてしまった状況もあった。改善すべく、毎日のフロアミーティングのなかで、各利用者様の通所目的や支援計画の内容を確認し、それに応じた職員間での課題や行動示準の共有を行っている。

支援者も個々の強みや能力を把握し、目標管理シートの内容を達成すべく、スキルアップの意識をもって業務にあたっている。そのうえで、利用者様・職員双方が楽しみややりがいをもって過ごせる環境、心地の良い場所づくりができるよう努めてきた。

〈運動として〉

○理学療法士に身体状況を確認いただいたうえで、指導や助言を受けながら運動機会を提供している。マッサージ、ストレッチ、歩行器や平行棒を使用した歩行運動等。

(個人の身体状況や運動内容の記録と管理)

○ベグ・洗濯ばさみ・将棋の駒等を利用した指先の運動

○レクリエーションを通しての全身運動

○創作活動や手あそびを通しての手や指先の運動

○通所後の集団体操と個別運動の実施

理学療法士の機能訓練指導の状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
指導	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
人数	9	8	9	10	6	7	8	7	7	7	6	8	92

〈レクリエーション活動として〉

○棒やセラバンド等を使用しながらの体操・音楽にあわせたダンスや全身運動・音楽鑑賞・ボールゲーム・宝探し・卓球・ボウリング・釣りゲーム等の体を動かす運動

○季節行事の催し物の実施

○塗り絵や折り紙等の創作活動

- 季節ごとの施設内装飾物の作成と掲示
- 書道展やアート展へ向けた作品制作と出展
- 植物の定植と管理しながらの施設内の環境美化活動
- 近隣公園への散歩と植物鑑賞の機会提供
- 施設全体行事としてのピクニックの実施

〈生活介護利用者様への作業提供・訓練として〉

- マット・スリッパ台・フロア備品等の拭き掃除
- トイレで使用する新聞のたたみ方と備品の補充
- 給食の材料やラベル・フロア活動で使用する装飾物・おたより作成にかかる素材集め等のPC作業
- ハウス野菜の計量や手入れ
- 施設内でのパンや野菜販売がある際の金銭のやり取りの訓練

(5) 自立訓練

個別支援計画を基に利用者様のニーズに添った支援を行っている。

まず、基盤として継続した通所に繋がる様に個々に合わせた支援を行い関係性の構築に努めた。体調面により気を付け、感染対策を取りながら施設内外の清掃の他、PC作業や農作業、レクリエーション、買い物等（コロナ禍では途中から中止）、幅広い活動内容の提供を行った。

農作業においては、利用者様間でも声を掛け合い協力し合いながら活動を行う事で、コミュニケーションスキルの向上を図り、更に、販売まで自分達で行うといった地域社会との関わりに目を向けた支援の提供に努め、将来的な自立へ向けた取り組みを行う事が出来た。その中で、挨拶や言葉遣い、身だしなみ、報告、連絡、相談といった意識づけを心掛けて支援を行った。

また、個々の利用者様に合わせた個別活動では、得意な事を伸ばしながら、意欲の向上を促し将来的な可能性や自立へ向けた取り組みも段階的に行った。個々に合わせたコミュニケーションと、メリハリある支援で、その人らしく活動が出来る様に支援を行っている。その一方、活動の幅が広がった事で、利用者様の障害特性や得意不得意、個々の利用者様の抱える課題を踏まえた支援において配慮に欠ける事もあった。利用者様のその日の体調やストレス状況を見極め、決まった活動の提供だけでなく、より柔軟な体制での活動の提供が必要であると感じる事もあった。

また、関わりの中で利用者様への伝え方や言葉遣い、声の大きさやトーンなどの重要性を改めて感じた。

「安心」「安全」を基に、個々の目的を持ちながら継続して通所してもらえる様に、利用者様のモチベーションや持っている可能性を引き出し、利用者様に寄り添ったコミュニ

ケーションと困っている時の速やかな対応、「気づき」など、職員内で連携を取りながら支援を行う事が求められると感じた。

(6) 日中一時支援事業

日中一時支援の利用定員は5名であったが、体調不良や新型コロナウイルスへの不安から休みがちな利用者様もあり、平均すると一日あたり3.1名の利用で稼働率も年間平均62%にとどまっている。

体調不良の訴えから休みがちになってしまっている利用者様には、毎朝の体調確認の電話や通所への促しなどおこなってきたが、なかなか利用へはつながらなかった。

継続的に利用されている方々に対しては、各々の意向をお聞きしながら作業や余暇活動を提供している。不定期で利用される方々に対しても同様に活動の場を提供している。

コロナ拡大以前には学校の夏休み期間中の祝日のみ利用されている方もあったが、前年から引き続いて、コロナの感染拡大も収束を見せないことから前記のような利用をされる方わずかにとどまっている。

5. 令和3年度 就労状況

*就労状況

- ・就職者 1名（就労継続支援B型利用者）

*就労への取り組みとして

- 就労継続支援B型利用者様の施設外就労
 - ・登米市公園（通年）
- イトーヨーカドー、イオンでの物販活動
- ハローワーク、就業生活支援センターとの連携
- 求人票の掲示、更新
- 地域企業とのつながりの構築
- 積極的な就労支援、企業見学、実習支援、職場体験
- 就労へのモチベーション向上（利用者及びご家族）
- セミナーの開催

6. 職員の資質向上策と福利厚生 および施設に関する事項

(1) 外部研修参加状況

変化の激しい社会福祉施設とニーズの多様化へ対応するため以下の研修へ参加し、ミーティングを利用し研修参加者による報告会を開催し、職員各々の資質の向上に努めた。

月日	研修名	研修内容	場所	参加者
4/21	スキルアップセミナー	認知症の診断と治療	からころステーション	伊(し)・遊佐
5/19	スキルアップセミナー	適応障害について	からころステーション	伊藤(し)
6/16	スキルアップセミナー	アルコール依存症	からころステーション	伊藤(し)
7/21	スキルアップセミナー	統合失調症の地域ケア	からころステーション	伊藤(し)
9/9	合同リモート救急講習	救命救急(心肺蘇生法)	ラボラーレ施設内 (zoom使用)	遠藤
10/20	スキルアップセミナー	統合失調症のリハビリテーション	からころステーション	伊藤(し)
10/21 10/22	食品衛生法 (zoom)	ここだけは抑えておきたい 改正食品衛生法セミナー	ラボラーレ施設内 (zoom使用)	佐藤・宗子 貴子・島本
11/17	スキルアップセミナー	続・統合失調症の地域ケア 地域生活のサポート	からころステーション	伊藤(し)
12/6	感染防止対策	新型コロナ感染症防止対策 基礎研修	ラボラーレ施設内 (zoom使用)	鹿野
12/13	感染対策強化	感染対策強化のためのBCP 計画策定研修	ラボラーレ施設内 (zoom使用)	佐々木央
2/16	サービス管理責任者更新研修	自己検証・関係機関との連携(演習)	ラボラーレ施設内 (zoom使用)	阿部麻美
2/17	サービス管理責任者更新研修	自己検証・関係機関との連携(演習)	ラボラーレ施設内 (zoom使用)	島本
3/23	集団指導		ラボラーレ施設内 (zoom使用)	萬代 佐々木央

(2) 内部研修

安心・安全、サービスの向上と職員個々のスキルアップを目的とし、内部研修会を開催した。

月日	研修名	研修内容：講師	参加者
2/24	障がい者虐待防止法	講義(講師：佐々木 央)	全職員

(3) 職員の福利厚生の実施内容

職員の健康管理と施設内感染の予防を目的とし、健康診断及びインフルエンザ予防接種

並びに腰椎検査、感染症対策を期した。

健康診断	対象者：全職員 受診数：18名	場所：サンクリニック
インフルエンザ予防接種	対象者：全職員 接種者数：20名	場所：ラボラーレ

(4) その他（施設に関する事項等）

地域・圏域における情報交換等のための会議、また施設整備に関する保安点検等を実施した。

就労ネットワーク会議	ハローワーク石巻	阿部麻美
桃生地域福祉推進委員会	社会福祉協議会桃生支所	萬代美保
自立支援協議会全体会	石巻市ささえあいセンター	佐々木央
食の自立支援	桃生支所	佐々木央

月日	名称	内容	場所／団体	職員
5/20、11/15	消防設備点検	消防設備点検	宮城ノーマ	央
9/6、3/3	自動ドア保守点検	自動ドアの保守点検	フルテック	萬代
10/12	厨房保守点検	保守点検	マルゼン	宗子
5/11、7/14 9/14、10/11 1/12、3/9	電気設備保守点検	電気設備の保守点検	日本テクノ	萬代
2/22	食品衛生監視	厨房作業場の検査、確認	石巻保健所	宗子
随時	車両点検	車両の保守点検	ディーラー	石川

7. 見学者並びに訪問者の受け入れ状況

積極的に受け入れをし、ラボラーレの活動について多くの方に知って頂く機会を設ける取り組みを行った。今年度はコロナ禍のなかではあったが、感染が少し落ち着いたタイミングなど、前年度より多くの見学者を受け入れている。

10月28、29日の2日間においては、石巻地区中学校特別支援学級の職場見学の受け入れもおこなっている。

*施設見学者

月日	見学者件数	見学者数
4月～9月	10件	16名
10月～3月	16件	87名

合計	26件	103名
----	-----	------

※個人での見学、他施設職員・保護者など

*支援学校実習・職場体験

- ・6月：石巻支援学校 1名実習
- ・10月：桃生中学校 3名職場体験

8. 避難訓練の実施状況

通報、消火、避難誘導、乗車訓練、屋内退避等の動きを職員一人一人が理解し行動、訓練することで、非常時においても適切な対応がとれるよう、また利用者様が落ち着いて避難できるように以下の訓練を実施した。また、新規職員が新たに加わったこともあり、マニュアルの確認を行っている

避難訓練の内容

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、消防署の立ち会いは依頼せず、報告のみ行なっている。

月日	訓練	内容	参加人数	
			利用者	職員
10/28	総合避難訓練	避難訓練	38名	21名
11/16	総合避難訓練	避難訓練	34名	20名
1/7	防犯訓練 講師：河北警察署員	不審者対応	0名	14名

9. (1) 令和3年度 ラボラーレ内行事実施状況

月日	行事名	内容	場所
10/12	ラボピク大会	ピクニック レクリエーション	ラボラーレ
毎月	祝日に係る催事	利用者様も交えての催事	ラボラーレ

※ラボピク大会においては、感染対策を行いながら、野外でスポーツ、レクリエーション等を企画しコロナ禍におけるストレス発散の機会を設けた

(2) 地域交流行事

令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、地域交流行事等は行

なっていない。

10. 地域における公益的取り組み

・高齢者世帯の方、障がい者を対象に、栄養バランスの摂れた食事を低価格で味わっていただきながら、外出と交流の機会を提供した。